

H25.12.1 東京博善新型炉見学会



今日の富士 (H25.12.1 8:55 のぞみ106号車内から)

本日は、東京博善(株)代々幡斎場で行われた、新型炉（東博式ロストル炉）の見学会に行ってまいりました。代々幡の地名はないので、代々木と幡ヶ谷の間に有るからだろうと、命名由来を想像しています。マンションや保育園、小学校が隣接する本当に街中の施設です。

東京博善は、都内6か所にロストル式の火葬炉を保有し、都内23区において約7割の火葬をこなしています。また、東日本の震災時には、一つの施設を提供し多数の被災死亡者のご遺体を受入、短期に火葬を終えるという、多大な貢献をされています。

創業以来、市街地に立地するため、環境上に重点を置いた、無煙無臭炉を開発提供し、ご遺族の感情や、宗教心にも配慮した運営をされています。今回の新型火葬炉は、火葬時に出る高温排気の熱を利用し、使用電力の50%を賄う温水発電装置を設置、さらに炉内に高温の補助空気を送り燃焼促進を図り、耐火材に新素材を使用することなど、多数の改良をして、エコ（省エネ）機能を併せ持つ炉の開発に乗り出された、初号機です。

私の感想としては、まず、10炉を4・5回転も一人で運転できるように自動化されていることに驚きです。また、お別れホールが3段階に各付けがされています。公営でも可能でしょうか？（地方自治体の負担軽減を図る受益者負担の考えで火葬料金に含まれる税金投入額を減らすためには、全体の火葬料金を上げるか、負担可能な方にサービスを提供し、高額をお支払いいただくのか、参考にしなければならない方式です。すべての方を公平にという平等の考え方や格付けは、運営資金上これからの課題の一つかと思います。）

最後に、自動化され操作は簡単そうですが、見た目、複雑な装置が一杯着いているなと思いました。維持管理は万全でしょうが、部品が増えるごとにメンテナンス箇所が増えるのも事実です。多数の装置が室外に有ったのも気になった点です。これは、民間の施設上税金が掛かるためだと理解しました。（公営施設では、斎場全体が非課税なのに対し、民営では、火葬炉（軽減）以外すべてが課税の対象になります。建屋で覆うことで税負担が増えるのです。）公営施設が多い我が国では、甘えず、立派に民間として経営されていることに敬意を表するとともに、経営センスや施設管理に至るまで勉強になりました。

最近是全国的に、民間委託や、指定管理者制度の導入で、公務員が作業をする職場では無くなっているのですが、始めてみる、民営の火葬場です。接遇に関しても、炉室や施設の清掃具合、働く人個々の体内から湧き出る出で立ち・姿勢・言葉遣い。公営とは、やはり空気が違うように感じました。